

第 11 回高大接続システム改革会議について

2016 年 2 月 17 日に第 11 回高大接続システム改革会議が開催された。

13:30 から 15:30 まで文部科学省 3F 講堂で行われた。

傍聴者は 100 名以上いて、傍聴席はかなり埋まっていた。

委員は 27 名中 16 名が出席で、やや欠席の多さが目立った。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」について
- (2) 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」について
- (3) その他

まず、議題(1)について事務局より説明があった。

今回は主に枠組みについて議論を行ない、問題作成など実施のイメージについては次回の議題にする予定だそうだ。

前回の議論において目的を明確にすべきとされたことから、テストの位置づけを明確に記した資料が示された。このテストは高校生の基礎学力の習得と学習意欲の喚起のため、学力の定着度合いを把握する仕組みである。一斉実施ではなく、実施の時期や問題のレベルを学校ごとに柔軟に設定することができる。

また、その性格から「テスト」という名称を改め、「診断」「検査」「検定」などとする案が検討されている。

実施の時期はこれまで高校 2・3 年次とされていたが、試験内容が 1 年次の共通履修科目までであり学習改善に活かすために、高校 1・2 年次を主とすることに改められた。ただし、3 年次・卒業生なども希望すれば受検することができることとする。

作問については、高校の定期考査、実力テスト、高校入試などに新作の問題を加えアイテムバンクとしてデータベースを運用するという。民間事業者の活用は、作問やアイテムバンクの運用等で検討されている。

CBT の導入についてはインハウス方式が検討されている。これはアイテムバンクの問題をネットワークや USB などの媒体を通して高等学校とやりとりし、各学校の既設のパソコンを利用して行うというものである。台数の制限から全員の同日実施は難しく、複数の問題を用いた分割実施が検討されている。

これに対し、13:55 頃より委員の意見が述べられた。

基礎学力の底上げが目的であることがしっかり示されたことで、当初の理念に沿うと概ね好意的であった。また、実施の時期や活用方法などかなりの面で学校現場に任されること

になり、その面では現場側からも歓迎されているようだ。ただ、平成 34 年度の本格実施以降は大学の選抜や就職に利用できる可能性も検討事項として残されたため、趣旨がゆがめられると反対する意見があがった。その他、費用の負担やテスト漬けになってしまうのではと心配する意見、作問に現場教員の参加を進めて欲しいといった要望が出された。次回の会議ではさらに具体的な議論に進みたいとのことであった。

14:45 頃からは議題(2)についての説明があった。

今回の入試改革のポイントは「記述式」と「複数回実施」であるが、実現性を検討していくにしたがってだんだん縮小していつているようだ。「記述式」は「条件付記述式」とし、設定した条件への適合性を中心に評価するという。「複数回実施」については記述式や英語の多技能評価により相当程度実現されるとして引き続き検討することとなっている。

さらに、今回はマークシート方式の改善例として物理と世界史における問題イメージが示された。

例 1 は物理のエネルギーと波の分野に関する問題でソーラーカーなどを題材に温まり方などを考える 5 つの小問からなっている。

例 2 は物理の力と熱の分野に関する問題で、温度計を題材に熱と体積変化・浮力などの関係を考える 3 つの小問からなっている。

これまでの問題との違いは以下の通りである。

- 観察・実験など探究活動の場面を取り扱う
- 他教科・日常生活との関わりをテーマとする
- 必要な情報を抽出する力を問う
- グラフの描写により正答を導く
- 対話形式を取り入れる
- 数学のように計算結果の数値をマークする

例 3 は 4 つの小問からなる世界史の問題で、歴史の資料を多面的にとらえ、複数ある正答をすべて選ぶ問題や、組み合わせを選ぶ問題、仮説を立てて話し合う場面を想定し、その根拠を問う問題などが出されている。

15:05 頃より、これに対する委員の意見が述べられた。

実施のための効率が重視され、目的と合わなくなっている、導入の可否を検討すべきだとの意見や、センター試験のような利用方法を前提としているという事務局側の姿勢に対し、このままでは実態があまり変わらないのではないかという意見もあった。

また、別日程で難しいことをやることを検討するだけでなく、同日程でボリュームゾーンに対する基礎的な問題をやるという別の選択肢も検討してはどうかという意見も出された。

次回の会議では大学の個別選抜改革についても議題として扱う予定だとのことである。

次回は、2月24日 15:00 より同じ講堂で開催予定である。